

次から次へと 重くのしかかる ストレス。。。

「現代はストレス社会」というイメージが定着し、ストレスによる長期欠勤や離職、生産性の低下が社会問題に発展しつつあります。厚生労働省によると、うつ病や自殺による日本の経済損失額が、年間約2.7兆円に上るといふ推計結果も公表されています。

**やわらげよう！
向き合おう！ストレスと。**



ストレスチェック制度の実施が義務化

2015年、労働安全衛生法の一部が改正され、従業員数が50名以上の事務所を対象にストレスチェック制度の実施が義務化されました。早い段階でストレスを感知し、社内の人事や環境の適正化、作業効率と満足度のバランス向上を図ることはオフィスマネジメントを考える上で最重要項目となりつつあります。

企業のストレス対策に始動

社内にカウンセラーを配置し、従業員の精神的な相談に応じる企業も増えていきます。また、執務空間に植栽を配置し、リフレッシュ効果を高めるなどストレスをやわらげる効果を狙ってオフィス環境を整備する動きも増えていきます。

オカムラが提案するソリューション

メンタルヘルスケア

従業員の心の健康を守る、メンタルヘルスケア相談室の設置。



オフィスグリーン

植物を眺めることによるリフレッシュ効果を高め、仕事のストレスを緩和。



CMF

家具や内装の色・素材・仕上げをコントロールし、人の心を動かす環境づくり。



従業員ひとりひとりの健やかなココロとカラダが、健康な企業をつくります

メンタルヘルスケアに取り組む企業が増えてきています

メンタルヘルスケアとは、全ての従業員が健やかに、いきいきと働けるような気配りと援助をすること、およびそのような活動が円滑に実践されるような仕組みを作り、実践することをいいます。ココロとカラダが健やかな状態で、やりがいを感じて働き、属する組織への貢献度合いが増すことで、企業が活性化し、社会に還元できる状態を最終目標としています。

「4つのケア」

厚生労働省は2000年に「事業場における労働者の心の健康づくりのための指針」を発表しています。この指針では「4つのケア」という枠組みをあげています。

セルフケア

従業員自らが心身の健康管理を日頃から責任をもって行うこと。メンタルヘルスケアの基礎知識を知りストレスを上手に発散することが重要である。

ラインケア

管理監督者が部下のメンタルヘルスをケアすること。職場でメンタルヘルス不調者を早期に発見し、適切な対応をすることが重要。日頃から従業員とコミュニケーションを持ち、安心して相談してもらえる関係を構築していくことが求められる。

事業場内産業保健スタッフ等によるケア

保健スタッフや産業医など、企業内に常駐する専門スタッフによるケアのこと。具体的には現場と連携しながら、カウンセリングや定期検診、健康管理に関する情報提供、外部機関への紹介など、専門的な立場からのケアをする。

事業場外資源によるケア

企業の外部機関と連携して実施するケアのこと。外部機関とは、病気の治療を実際に担当する地域の専門医や、メンタルヘルス対策支援を専門に行う事業者のこと。客観的な視点でサポートできることが大きな特徴。

ファシリティー面からメンタルヘルスケアの活動をサポートする要素

この「4つのケア」を軸に、ファシリティー面からメンタルヘルスケアの活動をサポートする要素をご紹介します。

遮音性のある個室

ラインケアや産業保健スタッフ等によるケアでカウンセリングを行う際は、遮音性の高い個室で実施します。プライバシーに配慮しながらも、一部にガラス等を使用し圧迫感のない設えとする例が多いです。



個室の位置・動線計画の配慮

ラインケアや産業保健スタッフ等によるケアでカウンセリングを行う際の個室の位置は、多くの人を通るような通路沿いは避け、動線も他の人となるべく交差しない様な配慮が必要です。隣合う個室は、サーバー室や倉庫等、常時人がいない様な環境の方が、誰かに聞かれているといった心配が軽減されます。



カウンセリング時の位置関係

ラインケアや産業保健スタッフ等によるケアでカウンセリングを行う場合、個室での座り位置関係にも配慮が必要です。相手が話しやすい環境をつくるのが重要です。



相手と90度の位置の場合は、目線が常に合わないため、相談しやすい位置関係

相手と隣合う場合は、よりプライベートな相談をする際に効果的な位置関係

グリーンの効果

ストレス発散を自ら行うセルフケアの手段として、空間内にグリーンを配置することがあげられます。グリーンはストレスを緩和する効果があります。



仕事上の心理的な
ストレスを緩和する効果

66%
UP

岡村製作所調べ(2011年)

照明の効果

集中力を高める蛍光灯の昼白色だけでなく、あたたかみのある電球色をオフィスに取り入れることで、目的に合わせて光環境を変えることが可能です。セルフケアの一環である、リフレッシュ効果やストレス緩和の効果が望めます。



香りの効果

空間に合わせたアロマでオフィス内の香りの演出が可能です。気分をリフレッシュさせたり、自由なコミュニケーションを促し、セルフケアをサポートします。



アロマ付スツール

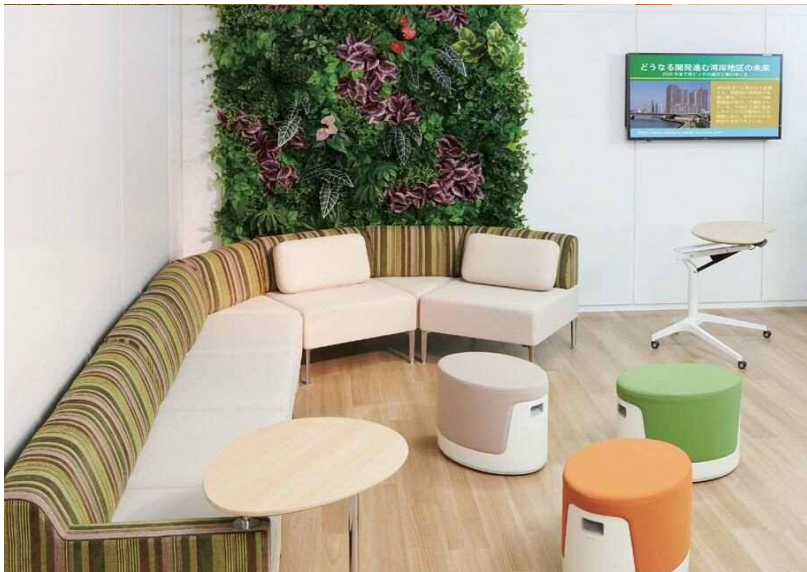
卓上ディフューザー

床置き型ディフューザー

メンテナンスフリーのグリーンで、気軽に、快適性をUPさせましょう

グリーンの効果をオフィスに取り込みましょう

オフィス内にグリーンがある環境は、働く人に潤いや癒しをもたらす、リフレッシュ効果を高め、更には来訪されるお客様へも安心感や安らぎを提供します。気軽に壁面に設置ができるフェイクグリーンで、室内を彩り、快適なオフィス環境を目指しましょう。



MagPlants

【マグプランツ・マグネット式グリーン】



本物の植物をリアルに再現したマグネット取り付けの造花装飾。スチール壁や専用フレームに設置が可能です。水や光の不要なメンテナンスフリーの製品です。

オフィスグリーンがもたらす効果

コミュニケーションの 活性化効果

- ・発話のきっかけとなる
- ・インフォーマルコミュニケーションの促進

仕事上の心理的な ストレスを緩和する効果

- ・植物を眺めることによるリフレッシュ効果

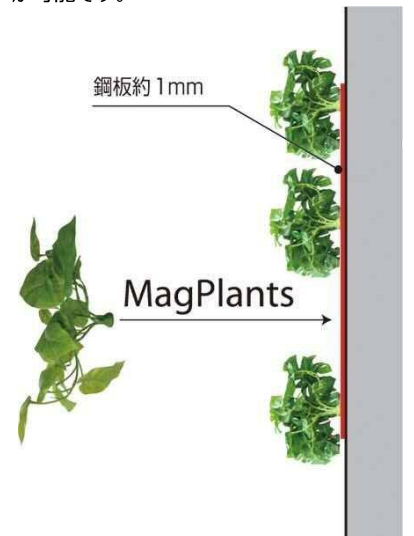
執務空間の 快適性を高める効果

- ・植物を配置することによる空間演出効果
- ・空間の雰囲気向上



取付け方法

スチール面であれば、様々な場所に取付けが可能です。



図表. オフィス・グリーンの設置後、ワーカーが体感できた効果
参考文献・資料 | オフィス・グリーンがもたらす効用に関する一考察/福岡村製作所/2011年3月

バリエーション

壁面だけでなく、デスクの上も簡単に緑化。水や光が不要なメンテナンスフリータイプなので、気軽に設置ができます。



豊富なバリエーションの中から、その場にあった植栽イメージにすることができます。



吸音パネル(GODOシリーズ)との組み合わせが可能で、彩りと機能性をプラスできます。



吸音パネル(GODOシリーズ)

“素材力”を活かして、ストレスを感じない心地よいオフィス空間に

人間と家具の接点となる“素材力”に注目しました

製品や空間の表面材を構成する要素、「Color（色）」「Material（素材）」「Finish（仕上げ）」をコントロールし、使う人の五感に訴え、人の心を動かすような空間作りが求められています。オカムラではCMFを総合的に組み合わせ、従業員の心を動かす製品・空間デザインや、リフレッシュ効果の高い製品・空間デザインをご提案いたします。



オカムラが考えるCMFについて、詳しくはこちらのQRコードのサイトをご覧ください。



CMFとは

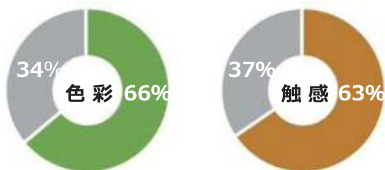
CMFとは・・・サーフェイス(表面)を構成する3つの要素です。

Color⇒赤、青、黄などの色彩

Material ⇒木、樹脂、金属などの素材

Finish⇒光沢、マットなどの表面加工

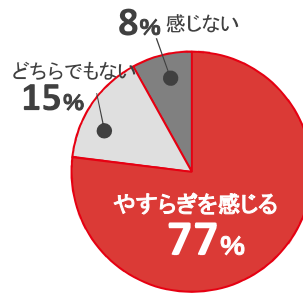
ワーカーの“10人に6人”がオフィスに色彩や、触感が必要であると回答しています。



※出所：2016年オカムラ調べ
(ワーカー1000名へのアンケート調査より)

CMFのチカラ

右下製品が設置されている施設でアンケートを実施したところ、77%が木の“やすらぎ”を感じていました。その多くは、「周囲とコミュニケーションがとりやすい」「過ごしやすい」と回答しています。これは、木の素材が持つあたたかみや色・匂い等の「CMF」が感性を刺激し、“やすらぎ”を与えていると考えられます。



株式会社岡村製作所調べ

人間の感性を刺激する様なCMFの製品化



落ち着いたカラーバリエーション
コットンをミックスした自然な手触り感

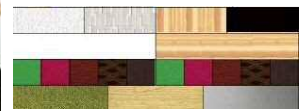


CMFを活かした空間デザイン事例



Okamura Future Center
“Sew”

▼主要マテリアル



Okamura Future Center
“Sea”

▼主要マテリアル



お問い合わせ先

KAMIHISA
株式会社カミヒサ

大阪市中央区大手通 3 丁目4番 2 号
TEL:06-6942-5391 FAX:06-6947-0886
e-mail:info2@kamihisa.co.jp